

2023年7月14日

報道機関 各位

配信先: 宮城県政記者会、文部科学記者会、科学記者会、東北電力記者クラブ、経済産業記者会、経済産業省ペンクラブ、中小企業庁ペンクラブ、資源記者クラブ、筑波研究学園都市記者会、沖縄県政記者クラブ、秋田県政記者クラブ

解禁日: 2023年7月20日15時

国立大学法人東北大学  
国立研究開発法人産業技術総合研究所  
国立大学法人琉球大学  
国立大学法人秋田大学

## 〈記者説明会のお知らせ〉 宮古島の固有種の故郷は消えた島だった？ 地質学と生物学の融合研究が描き出した新たな琉球列島の形成史と生物進化

琉球列島の生物相は多様で独特なことで知られますが、その成立過程には多くの謎が残されています。プレート境界上に位置する島々そのものの形成過程が複雑なのが、その大きな理由です。

東北大学大学院理学研究科の井龍康文教授らは、世界自然遺産の沖縄本島や西表島のものに比しても特異な宮古島の生物相について、その成立過程を明らかにしました。地形や地質から宮古島が何度も海に沈んだのは明らかですが、にもかかわらず、そこには固有の陸生生物が多く見られます。この謎を解く鍵は、かつて沖縄本島と宮古島の間に巨大な島として存在し、今は海中に台地状の地形となって残る陸塊の存在でした。研究グループはこれを沖縄一宮古海台（OMSP）と名付け、宮古島の生物相の成立過程を説明する OMSP 仮説を提唱しました。本研究成果は、7月20日付で地球惑星科学の専門誌 Progress in Earth and Planetary Science 誌にてオンライン公開されます。

つきましては、別紙のとおりオンライン記者説明会を行います。ご多用の折とは存じますが、ご参加いただきますようよろしくお願い申し上げます。なお、

参加をご希望の場合は、事前お申込をお願い申し上げます。

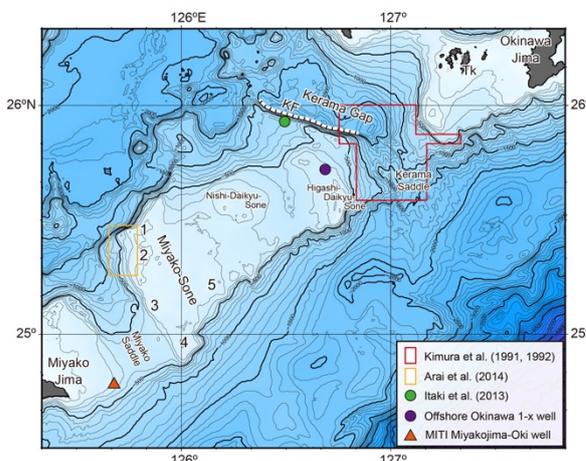


図. 沖縄本島から OMSP にかけての海底地形。慶良間ギャップ（Kerama Gap）および慶良間鞍部（Kerama Saddle）の位置が示されています。紫の丸は沖縄沖 1-x 号井の位置を示します。

## 記

■日 時：2023年7月20日（木）15:00-16:00

■開催形式：オンライン（zoomによる配信を予定）  
お申し込みいただいた方に zoom ミーティング情報をメールにてご案内致します。

■お申込：以下のリンク（Google Form）よりお申込みください。  
<https://forms.gle/j6erTDDZtiConLuY9>



■発表者：井龍康文 教授 東北大学大学院理学研究科地学専攻

■内 容：1. 井龍康文 教授による研究説明  
2. 質疑応答

以上

### 【問い合わせ先】

（研究に関すること）  
東北大学大学院理学研究科地学専攻  
教授 井龍 康文（いりゅう やすふみ）  
TEL: 022-795-6622  
E-mail:  
yasufumi.iryu.d8@tohoku.ac.jp

（報道に関すること）  
東北大学大学院理学研究科  
広報・アウトリーチ支援室  
TEL: 022-795-6708  
E-mail: sci-pr@mail.sci.tohoku.ac.jp

国立研究開発法人 産業技術総合研究  
所  
ブランディング・広報部 報道室  
E-mail: hodo-ml@aist.go.jp

琉球大学総務部総務課広報係  
TEL: 098-895-8175  
E-mail: kohokoho@acs.u-ryukyu.ac.jp

秋田大学広報課  
TEL: 018-889-3019  
E-mail: kouhou@jimu.akita-u.ac.jp